

ユース活動案

第5版 2022年8月16日

目的

- 日頃当たり前に使っているインターネットは、どのように成り立ち、どのような課題があり、どのような配慮をする必要があり、どう解決していくべきかについて、国内外で議論を行い解決に導く必要がある。
- 新たなコンテンツや技術、法律を生み出していく若者世代が自分ごととして捉え、グローバルなインターネットのコンテンツ・技術・ルールづくりをしていく必要がある。
- 美味しいところを他国に持っていかれないよう、日本が持続的にルール作りに参加する必要がある。そのためには常にユースを育成する必要がある。
- 日本の若者が、若者に特有な国内・地域・グローバルなインターネットガバナンスの課題を発見し、議論を先導する。
- 国内、地域、ひいてはグローバルなIGF活動に参加する次世代を育成する

建て付け

Youth Engagement at the IGF¹が示す4つのモデルでは、活発化チームの実態に最もふさわしいと思われる、1を採用することとしたい。ただし、ユースIGF活動が自立できそうであればモデル2への移行も検討する。

- モデル1: NRI活動によって設立されるユースIGF活動
- モデル2: 独立して設立されるユースIGF活動
- モデル3: NRIプロセスに統合される若者向けプログラム
- モデル4: インターネットガバナンスにおける若者の参加を促進するための追加のプロジェクト

具体的な行動項目

- 国内ユース会合開催(2022IGF報告会または2023国内事前会合の一部として、もしくは単独開催)
- インターネットガバナンス関連イベントへの日本からの若者送り込み
 - 最終ゴール: IGF 2023のユースイベントに十分な数の日本からのユースが参加し、発言・議論する
 - 2023年国内事前会合でユースが発表
 - Asia Pacific Youth IGF 2023に日本からのユースが参加
 - 2022年国内事前会合にユースが参加
- インターネットガバナンスに関して若者が勉強できるようにする枠組みの構築
 - 2022年国内事前会合後、AP Youth IGF 2023までの間に勉強セッションを月1回程度のペースで開催

¹ United Nations IGF Secretariat,
https://www.intgovforum.org/multilingual/index.php?q=filedepot_download/4874/2454

- 有志だけでは息が長く続かないと思われるので、ユースが継続的に参画できる仕組み（教育機関との連携など）を作る

2022-2023スケジュール

- 最終ゴール: IGF 2023のユースイベントにユースメンバーが参加・発表
 - 必要であればユースイベントの企画実行にも寄与する
 - 現地参加費支援(国内遠隔地在住の場合)
- 1つ前のゴール(2023/10): 2023年国内事前会合
- 2つ前のゴール(2023/9): Asia Pacific Youth IGF 2023
 - (チームが費用支援を得られれば) 現地参加費支援
- 2022/10-2023/6(月1回程度): ユース対象者に教育セッションを行う
- 3つ前のゴール(2022/10): 2022年国内事前会合にユースが参加すること
- 2022/9: 対象者選定: 5名~10名程度
- 2022/8: 対象者募集

エンゲージメント

- ユース参加希望者を集めるための方法
 - IGFコミュニティや各参加団体に関与・参画している教育機関、および(存在する場合は)その教員の研究室に募集をかける
 - 対象例: 大東文化大学、中央大学、京都情報大学院大学、東北大学、東京大学、京都大学、慶應義塾大学、早稲田大学、武蔵大学、国際大学 Glocom、情報セキュリティ大学院大学、駿河台大学、神戸市外国語大学²
 - 関連企業・団体への声かけを行う、インターンシップ相当プログラムとして認めてもらえないか交渉する
 - NTT、NEC、富士通、IJJ、JPRS、JPNE、BBIX、インターネットマルチフィード、経団連、総務省
 - [enpit](#)のような学術ネットワークを使って広報してもらう
 - 各団体の人材育成プログラムで広報する
 - 例: IPAの[中核人材育成プログラム](#)
 - 総務省の教育プログラムで広報してもらう
 - 後期中等教育、高等教育の教員に声を掛ける
 - 持続的に活動を続けるため、継続的に新たに若者が入ってきて、卒業した人はIGFの議論に参加する、という仕組みを作る
 - 関連する学会に声を掛ける: 情報処理学会、WIDE、JILIS等々
- 海外団体との協力
 - 対象候補: Net.Mission.Asia³、APSIG⁴
 - 互いのイベントに相互参加することを検討する。
- APSIGと協力し、APSIG常連講師に教育セッションへの登壇もしくは既存の録画利用許可を依頼する

² [2022年模擬国連世界大会](#)のホスト校

³ What is NetMission.Asia <https://netmission.asia/about-us/what-is-netmission-asia/>

⁴ About Us <https://www.apsig.asia/about/>

- 日本政府および国内各団体でイベント企画・若者選抜する計画があれば協力する方向で検討する
 - 8月27日に安心ネットづくり促進協議会(安心協)が、高校生ICTカンファレンスの2022年最終回を開催し、次回は2023年2月もしくは3月

教育セッション案

- 概ね月1回程度の能力開発セッションを実施する。うち3回程度は遠隔ワークショップとする。セッションはすべて録画し、復習できるようにする。
 - 前半1時間座学、後半1時間ディスカッションとする
- 内容⁵(【括弧】内は講師候補だが私案の段階で、打診などは未着手)
 - IGFとは、およびその歴史【加藤、上村】
 - インターネット重要インフラ(ドメイン名、IPアドレス、AS番号)の管理【堀田、前村】
 - サイバーセキュリティ【小宮山、上田】
 - 人権+倫理【星暁雄】
 - プライバシー【JILISもしくはMy Data Japanのどなたかを紹介していただく】
 - ソーシャルメディアのガバナンス【法政大 藤代裕之 or 明治大 湯浅壘道】
 - Eコマース(独占防止、グローバルインターネット基盤税)【公正取引委員会?】
 - ユニバーサルアクセス(多言語主義、ジェンダー、障がい)
 - ネットワーク中立性【実積】
 - ネットへのアクセス(ユニバーサルサービス、その他アクセス関連含む)
 - 著作権、知的財産権、海賊版【福井弁護士、岡本弁護士もしくは水野弁護士】
 - デジタルリテラシー
- セッション受講者への動機付け策
 - 修了賞:総務大臣、村井さんなどの権威をお借りできるか?
 - 大学生にとってインターンと比較されてしまう:企業からの参加動機付け策はあるか(インターンシップ扱いになるなど)?
 -

募集要項案

- 募集対象者数:5名程度、最大10名(海外イベント派遣にこだわらなければもっと多数でも可)
- 対象年齢:35歳以下とし、18歳未満の場合は保護者または指導教諭の了承があればOKとする
 - Youth Coalition on Internet Governance (YCIG) によれば13歳以上35歳以下
 - Youth IGF Movementでは15歳以上35歳以下
- 日本国籍を持つ、もしくは日本に6ヶ月以上在住する方
- 日本語および英語の自然科学または人文社会系の文献が読めること。海外イベントに参加する際は、英語で発表ができることが望ましい。
- 教育セッション(毎月、計10回程度実施、1回1時間30分、時間帯は夕方または夜間)に参加できること

⁵ APSIG 2020 Reportのものを借用

<https://docs.google.com/document/d/1KQgZs6ysZu83JvUy9qJIIGzKjX52T0DzpChNLD644c/edit#>

- パソコンで文書や発表スライドが作成できること
- インターネットにアクセスできること

リソース

- 費用の手当: 組織化された新NRIから費用が手当できればそこから、そうでなければ活発化チーム参加組織から松竹梅で試算
 - 主に海外イベント派遣費用2023APyouth+IGF2023+APIGA2023概算費用
 - IGF2022: 1名あたり約33万円(IGF2019実績+燃油サーチャージ)
 - IGF2023: 1名あたり約8万円(東京の人が京都に移動し宿泊と仮定)
 - 2023APyouth: 1名あたり約19万円(APrIGF2019実績+燃油サーチャージ)
 - APIGA2023: 1名あたり約15万円(APrIGF2019実績+燃油サーチャージ)
 - 1名あたり計75万円(5名として375万円)
 - 費用手当でできなければ費用支援なし、全部リモート参加
- 運営側人的リソースの手当: 現状の活発化チーム関係者もしくはその所属団体勤務者の手弁当、3名以上、他委員会に参加されていない方が望ましい
 - ユースメンバーの選定
 - 勉強セッションの企画、講師への依頼、連絡
 - 参加者の支援

付録:4つのモデル⁶

モデル1: 国、地域、サブ地域のIGFイニシアティブが主催するユースIGFイニシアティブ

国・地域・地方のIGFイニシアティブの中には、その年次IGF会議の中で、特に青年に焦点を当てたプログラムを組織しているものがある。このような場合、主催者はNRIのマルチステークホルダー組織化チームである。彼らは若者のための特定のトラックを開発し、より広いコミュニティによって構築されたボトムアップのアジェンダについての考察を提供するよう求めている。

例えば、オランダのユースIGFは、オランダの国別IGFが主催している。若手には専用の枠が与えられ、年次会議のプログラムを考慮しながら、より広いオランダIGFコミュニティが選んだ主要な関心領域について議論することができる。この組織構造の重要な要素のひとつは、必ずしも若者の定義に当てはまらない他のすべてのステークホルダーが、これらの議論に出席し、積極的に参加することが歓迎されていることである。こうして知識や異なる視点が共有され、長期的に能力を高めていくことができる。ユースの議論は、時には成果物(ユースメッセージ)としてまとめられ、NRIの会議そのものへの貢献となる。また、ユースが積極的な参加者やスピーカーとして直接、国・地域のIGF会議のセッションに意見を寄せただけの場合もある。

また、このような実践例として、アジア太平洋地域IGF (APriIGF)がある。NetMission.Asiaのユースグループは、APriIGFのマルチステークホルダー運営グループ(MSG)の支援を受け、APriIGF年次総会と並行してアジア太平洋地域のユースIGFイニシアティブを開催している。専門的な興味という点で異なる背景を持つ若者たちにユニークな議論の場を提供することを目的に、主催者は3~4日間のインターネット・ガバナンス・キャンプを立ち上げた。キャンプのプログラム構成は、IGFのマルチステークホルダーアプローチのシミュレーションに近いものである。参加者は、インターネットガバナンス・コミュニティの中で伝統的に認識されている4つのグループのうちの1つの役割を割り当てられる。

キャンプ期間中は、ボトムアップで構築されたアジェンダに沿って特定のトピックにアプローチし、割り当てられたステークホルダー・グループの立場から展望を提供することが奨励される。参加者は様々なインターネットガバナンス分野の専門家と協働し、この合宿の主な目的は、若者に特定の実質的な問題の本質を理解してもらうと同時に、IGFのプロセス全体、特に中核となるIGFの原則の地方での実践に関して理解してもらうことである。

この合宿の主な目的は、具体的な問題の本質を理解するとともに、IGFのプロセス全体、特に地域・国家レベル、世界レベルでのIGFの中核的な原則の実践について理解してもらうことである。アジア太平洋ユースIGFの成果はAPriIGFにも反映され、同時にこの地域会議へのユース参加者の参加も拡大される。

モデル2: 独自に組織された青少年IGFの取り組み

いくつかのコミュニティは、ユースIGFイニシアティブを独自に組織する実践を確立している。この種の実践の本質は、特定の国や地域の若者が、IGFの中核的原則を尊重しつつ、彼らにとって

⁶ 本付録は、以下ページの機械翻訳である。YOUTH ENGAGEMENT AT THE IGF
https://www.intgovforum.org/multilingual/index.php?q=filedepot_download/4874/2454

関連性のあるインターネットガバナンス問題を議論するためのマルチステークホルダー・プラットフォームの組織を促進する構造に自ら関与することである。

例えば、ドイツのYouth IGF Initiativeは、年齢、性別、学歴、出身地が異なる5人の若者からなる委員会によって組織されている。

彼らは、一般投票を通じて、トピックと講演者の提案の両方について、コミュニティに意見を求め、ボトムアップ方式でプログラムを構築している。このイニシアティブは、ドイツ国内のIGFに先立ち、1日のミーティングを開催している。Youth German IGFは独自に資金を調達し、全国の若者に会議参加のための助成金を提供している。助成金の選考基準は、民族・多様性のバランスだけでなく、性別や地理的なバランス、教育の多様性(高校、大学など)⁷、組織的な背景⁸に基づくものである。開催にあたり、ユースIGFは、様々なステークホルダーからスピーカーを招き、その年のアジェンダのトピックについて議論する。さらに、彼らはポジションを用意し、アジェンダの目標を設定する。「ユースメッセージ」としてまとめられる。このメッセージは、ドイツ国内のIGFだけでなく、世界のIGFにも提出される。さらに、ユース・ドイツIGFは、ドイツIGFの運営委員会に4人のユース代表を座らせ、国内プロセスの中でユースの立場と利益を一つのステークホルダーグループとして代表させている。

ユース・ラテンアメリカ・カリブ海地域IGF (Youth Latin American and the Caribbean, Youth LACIGF)は、2016年からこの実践を行っている。この取り組みは、ステークホルダー、地域、ジェンダーのバランスをとりながら、他のステークホルダーに加え、彼らのユースの定義に合うメンバーで構成される組織委員会によって独自に組織されている。年間プログラムのアジェンダは、より広いコミュニティからの一般投票に基づき策定される。このプロセスの後、i)プログラムアジェンダ、(ii)ソーシャルメディアと外部アプローチを担当するコミュニケーション、(iii)オープンコース、(iv)4ヶ国語イベントを実現するための翻訳委員会、などの委員会を構成するボランティアを公募している。Youth LACIGFは、会議の主要な成果を伝えるだけでなく、現場に参加して直接議論に参加することで、LACIGFにフィードバックしている。

2019年、Youth LACIGFはボリビア、ラパスで第4回年次会議を開催した。COVID-19の大流行により、Youth LACIGF 2020はオンラインで開催された。

香港のYouth IGFも似たような組織構造になっている。組織委員会は、3つの異なるステークホルダー・グループからのメンバーで構成されている。フォーラムで議論する関連事項を特定するために、コミュニティからの意見を収集するための協議が組織された。このイニシアティブは、高校生をデジタル市民としてグローバルな議論に参加させ、デジタル社会への帰属意識を高め、他のインターネットユーザーとの相互尊重のもと、自分たちの権利と責任を理解させることを目的としている。インターネットガバナンス問題の専門家が参加者に実質的なトレーニングを提供し、IGFのマルチステークホルダーモデルにおける個々のステークホルダーグループの役割を理解するために、各ステークホルダーグループの役割を割り当てている。

ウクライナのYouth IGFは、NRIs Toolkitの6つの国連言語への翻訳を経て、2017年に開始された。マルチステークホルダー組織委員会は、すべてのステークホルダーに優先順位の高いインターネットガバナンスの問題を提出するよう呼びかけることを通じて、ボトムアップ方式で議題を策定している。このイニシアティブは、若者と上級専門家の連携を促進するため、ウクライナ国内のIGFと密接に協力している。また、協議プロセスを経て、代表者がインターネットガバナンスフォーラムの年次総会に積極的に参加するよう働きかけている。これまで、4回の年次総会が開催されました。

⁷ この基準は、学術的な教育を受ける若者と、他の種類の教育課程を履修する若者の間のバランスをとることを目的としている。

⁸ あらゆるタイプの組織に従事している若者。それが若者政党、NGO、若者協会などであっても、組織化されていない若者に対して。

Youth IGF Argentinaは、Youth IGFの委員会と年次会議のセッションへの参加を通じて、インターネットガバナンスに若者を取り込むことを支援するマルチステークホルダー・プラットフォームである。Youth IGF Argentina 2020の第1回会合は、オンラインで開催された。メインテーマは

- COVID-19のパンデミックにより検疫中の若者はどのようにインターネットを利用するのかであった。プログラム委員会は、年次イベントの企画、講演者への働きかけ、アルゼンチンの若い参加者の会議への招待を担当する。組織委員会は、技術コミュニティ、市民社会、学術界から、3つの主要な地方からの代表者を集めているのが特徴である。ブエノスアイレス、サンタフェ、エントレ・リオスの3つの州から代表者が参加している。

Youth IGFトルコは、毎年開催される全国規模のフォーラムで、主に大学生や修士課程の学生が参加している。大学や修士課程の学生が、インターネットガバナンスやデジタル政策に関するトピックに取り組む。デジタル政策に関するトピックを取り上げ、専門家や同世代の人々と議論します。Youth IGFトルコの主要なメッセージは、2015年の第1回フォーラム以来、世界のIGFで発表されている。2017年のYouth IGFトルコ(第3回)は、13都市から参加する学生のための旅費を創設し、ISOCの資金提供により、ステークホルダーの包括性、ボトムアップアプローチ、アウトリーチ活動の強化をもたらした。2018年は、地元の自治体、.trドメイン名の管理、ISOCのトルコ支部の現物支援を受けながら、第1回メディア・リテラシー・フォーラムを共同開催した。2019年は、中東工科大学(METU)主催で、首都アンカラで初めてフォーラムを開催し、学識経験者が参加した。この回では、トルコの優秀な大学や専門家が「仕事の未来、新興技術、デジタルスキル」をテーマに発表した。

Youth IGF Turkey in 2020は、COVID-19の流行によりオンラインで開催され、第一線の専門家と大学生・大学院生が集まり、メインセッションは3.メディア・リテラシー・フォーラムに特化して、2020年12月にオンライン対話型セッションとディスカッションを通じて開催された。

Youth IGF China(YIGFCN)は、独自に組織されたユース・イニシアティブとして、2018年に発足した。組織委員会は、政府、企業、教育や児童保護領域の組織の関係者と密接に連携し、イベントを実施している。アジェンダを構築する上で、教師、保護者代表、子ども、若者からのインプットは大歓迎であり、奨励されている。

YIGFCNの特徴の一つは、「若手研究者」によるアプローチである。若手研究者は、本会議の前にテーマ別の研究を行う。若手研究者は、シニアトレーナーのサポートを受けながら、研究のメインテーマを決め、調査を行う。これは、「若者主導」「子ども・若者参加」というコンセプトのもと、若者研究者が主体となって研究を進め、さらに大人の支援者やパートナーとも協力して、よりよい議論の成果を生み出すことを目的としている。研究の成果は、YIGFCNの本会議で発表され、様々なステークホルダーとさらに交流を深めている。

同様の機能は、インドネシアのYouth IGFが適用しているモデルでも観察することができる。マルチステークホルダー組織委員会の4人の構成により、このイニシアティブは、オープン、ボトムアップ、包括的、透明、非商業的、マルチステークホルダー的な方法でIGFのプロセスを組織することができる。このイニシアティブでは、特に創造的で革新的な議論の進行方法に注意を払っている。例えば、従来のパネルディスカッションやラウンドテーブルの形式に加えて、ライブエクステンジを行う。

例えば、従来のパネルディスカッションやラウンドテーブル形式に加えて、テーマとなる映画を参加者が共同で鑑賞した後に、ライブで意見交換を行う。年次会議の合間には、様々なインターセッション・アクティビティが実施される。その中には、国内の大学や大手ハイテク企業のオフィス代表と協力して、インターネットガバナンスに関する特定の問題についてのコースやトレーニングも含まれている。

これらの交流の成果は、Youth Indonesia IGFを支援する国内フォーラムに反映され、若者と上級専門家や指導者の間に相乗効果を生み出すのに役立っている。

独自に組織されたYouth IGFのもう一つの例は、India Youth IGFである。このイニシアティブは、若い学生や専門家とインターネットガバナンスの上級専門家からなるハイブリッド委員会が主導している。若者は運営グループと組織委員会を形成し、上級の関係者は諮問委員会のメンバーである。年次総会のプログラムは、オープンな公開協議を通じてボトムアップ方式で作成されます。委員会は、セッションの形式を工夫し、双方向性と学習の機会を確保します。伝統的なパネル形式ではなく、ゲームや質疑応答を多く取り入れ、若い人たちの興味を引くようなプログラムになっている。平均して、約100名の参加者が会議に参加している。

モデル3: NRIのプロセスにおける青少年向けプログラムの統合

多くのNRIは、年次総会を開催する際、準備過程と年次総会自体に若者が参加し、統合されることに特に重点を置いている。これを達成するために、NRIは年次会議の中で、特に若者がIGFのプロセスと関連する実質的な問題を理解できるように準備することに焦点を当てたトラックを開発している。通常、NRIは、青少年が年次総会に効果的に参加できるようにするため、これらの調整プログラムをプレイベントとして、または会議の前にオンラインで開催することを目的としている。

一例として、南東ヨーロッパのサブリージョンIGFである「South Eastern European Dialogue on Internet Governance (SEEDIG)」が挙げられます。2017年、このIGFイニシアティブは、オンラインと現場での両方の要素を持つ、初のユーススクールを開催した。年次SEEDIG会議の前に、Youth Schoolの参加者は、SEEDIG会議への参加準備を目的としたウェビナーに参加しました。SEEDIGの期間中、プレイベントとして若者だけの半日セッションが開催されました。このセッションは、インターネットガバナンスに関連する特定のケースに関する討論として企画され、その後のSEEDIGでの議論に積極的に参加できるように、若者のメンバーを準備・奨励することを目的としたものであった。SEEDIGのコアチームのメンバーと他のSEEDIGコミュニティのメンバーで構成される自由参加のオーガナイザーチームが、スクールの内容を準備した。若者の参加者は、地域、性別、教育的背景などの多様性を実現する必要性を念頭に置きながら、公募によって選ばれ、SEEDIGのスポンサーから経済的な支援を得た。このプログラムの目的は、地域の若者に学習、ネットワーク、意見交換の場を提供し、SEEDIGやその他のインターネットガバナンスプロセスに積極的に参加するための準備をさせることである。また、より多くの若者がSEEDIGやより広範なインターネットガバナンスの長期的な貢献メンバーになることを奨励することも目的の一つである。SEEDIGのコアチームのメンバーやその他のSEEDIGコミュニティのメンバーで構成されるオープンエンドな組織チームが、毎年スクールの内容を準備している。参加する若者は、地域、性別、学歴などの多様性を考慮しながら、毎年公募で選ばれている。4. SEEDIGユーススクールは、2020年6月から9月の間に、2期に分けて全てオンラインで開催された。SEE+の様々な国から17名の学生が選ばれ、第2フェーズに進み、「法執行機関による顔認識技術の利用」をテーマにしたライブオンライン討論会の準備と参加を通じて、プログラムの最終段階を迎えた。

ナイジェリアのIGFは、年次会議のプレイベントとして、独自の包括的なタイトル(最新のもの「Empowering the Connected Youths」)のもと、若者専用のワークショップ形式を開催する慣行を導入した。関連する専門家が関心のあるトピックについて具体的なケーススタディを行い、対話形式のディスカッションを重視した形式で、一日中若い参加者とともに作業することを約束する。最終的な成果は、若者の参加者が直接作成した報告書にまとめられます。この報告書は、ナイジェリアの国内IGFでも、報告書全体の一部として不可欠なものとなっている。

パラグアイの国内IGFは、新たな専門知識と人的能力を育成し、この国内IGFの将来を強化するために、あらゆる背景を持つ大学生を対象とした教育ウェビナーを定期的で開催している。

欧州の地域IGFであるEuroDIG (European Dialogue on Internet Governance)は、その初期から若者を巻き込んで開催されている。2010年のユース・ラウンドテーブルを皮切りに、2011年から2016年まで、ユースのイベント「ニューメディア・サマースクール」が様々なユース組織(欧州学生フォーラム(AEGEE)、交流と理解のための若者(YEU)、欧州連邦青年(JEF)、欧州青年プレス(EYP)、欧州青年グリーン(YEG)によるコラボレーション)によって運営された。EuroDIGがスウェーデンのストックホルムで開催された2012年には、EuroDIGのイベントとして北欧ユースIGF会議(NYIGF)が開催された。ノルウェー、デンマーク、アイスランド、フィンランド、スウェーデンから14歳から17歳までの30名の若者が北欧ユース代表団を結成しました。2017年の年次総会から、EuroDIGのユースイベントは「YOUthDIG」と呼ばれるようになった。2日間にわたるこのトラックの目的は、ヨーロッパに居住する若者の相互学習とネットワーキングを促進し、経験豊富なインターネット政策の実践者と議論し意見を交換し、ユースメッセージを作成し、EuroDIGとIGFで発表することである。

アジェンダはEuroDIGプログラムのテーマ別カテゴリーに沿って構成され、EuroDIG会議のプログラムに含まれる実質的なトピックの中から上位3つを選ぶよう求められた参加者が表明した好みを考慮しています(より広いコミュニティによってボトムアップ方式で構築されたもの)。若者の参加者は、インターネットガバナンスの専門家と緊密に連携し、インターネットガバナンスプロセスに関与するための潜在的な方法を学び、議論します。この独立したトラックとは別に、EuroDIGは若者の声をプログラムに取り入れるべく、多大な努力を払っている。若者は組織チームに参加し、各セッションで発言することが奨励されている。以前の経験から、EuroDIG/YouthDIGは、メインプログラムの中で若者だけのセッションを別に設けることは、結局は若者を疎外することになると判断し、このようなやり方は従うべきモデルではないと考えたのである。

もう一つの実践例は、スリランカの国内IGFが行った活動である。スリランカIGFは、2017年の年次総会と並行してYouth IGFイニシアチブを実施し、若者のための一連のテーマ別トレーニングセッションが行われた。これは、若者たちがインターネットガバナンス関連のトピックを自分たちの間で議論する非常に良い機会であると見なされた。これは、2018年に若者によって独自に開催されるYouth IGFイニシアチブの準備のための実験的な設定であった。インフラ、言語問題、接続の質、手頃な価格、識字率、インターネットの安全性、インターネットを介した起業家精神などが、オープンフォーラムで話し合われた主要なトピックであった。その結果、IGFスリランカへの若者の参加は、会議に先立って行われたこの若者との最初の関わりを通して、増加した。

2016年、ブラジルの国別IGFは、その青年プログラムを作成し、2015年にブラジル政府が主催したIGF年次会議に、ブラジルのIGFコミュニティから50人の青年が参加した。IGF会議の前に、これらの参加者は、インターネットガバナンスの実質的なプロセスに関する能力開発プログラムを完了した。このプログラムへの継続的な投資により、世界のあらゆる地域から100人以上の若者が積極的に参加するようになった。

IGF-USAは、従来から若者と関わり、彼らをこの国内IGFコミュニティに統合するために、いくつかの大学と協力してきた。そのために、セッションやワークショップに若者をスピーカーとして参加させたり、若者が自分たちのコミュニティにとって関心のあるテーマでワークショップを開催したりと、数年にわたりさまざまなアプローチがとられてきた。これらのセッションはすべて、若者による若者のためのものであり、IGF-USAの年次セッションに参加し、議論に参加するよう、すべての人にオープンに招待されていた。彼らは通常、主に3つの異なる大学の教授陣によってサポートされていた。さらに、IGF-USAはイーロン大学とユニークな関係を結んでおり、毎年15~20人の若い参加者をIGF-USAに--毎年のIGFにも--連れてきて、セッションに参加するだけでなく、イーロ

ン大学の3人の教授のサポートを得て、さまざまなセッションのレビューやレポートというユニークな役割も担っている。ワークショップの参加者とイーロン大学の参加者は、通常、閉会式のキーメッセージの「読み上げ」で発言する機会を与えられており、若者の参加に注目が集まっている。

コンゴ民主共和国の国内IGF(DRC IGF)は、コンゴ自由ソフトウェアユーザー協会(ACOUL)とCentre Africain d'Echange Culturel (CAFEC)と協力し、若者に焦点を当てたイニシアチブであるYouth IGF DRCを設立しています。返還セッションが開催された後⁹、この国内IGFは、キンシャサ市にある多くの大学で、若者主導による意識向上セッションの開催を支援した。当時、この国内IGFの組織委員会は、インターネット・ガバナンスに関わる事項が他の若者たちから強く支持されていることを認識していた。これをきっかけに、メーリングリストやモバイルアプリケーションのWhatsAppを利用して、インターネットガバナンスに特化したトレーニングセッションを開催するようになった。若い参加者は、インターネットや重要なインターネット資源、誰がインターネットを運営しているか、誰がインターネットを管理しているか、インターネットガバナンスプロセスにおけるアクターは誰かなど、様々なトピックに関するこの国内IGFから送られた実質的な資料について活発にブレインストーミングを行っている。このイニシアチブは、国内IGF DRCにフィードされ、最終的なプログラムアジェンダ中に関心のあるトピックが含まれることとなる。長期的には、この方法論は、研究プロジェクトを通じて関連する問題を特定することを目的としている。

コロンビアの国内IGFは、若者の参加にも投資している。2013年以来、中核となるマルチステークホルダー組織チームは、すべてのステークホルダーを集め、コロンビアの年次IGFで取り上げられる地元に関連する問題を議論するために、隔月の参加スキームを組織してきた。2016年以来、このイニシアチブは、大学生に権限を与え、さまざまなトピックについて意見を述べるよう奨励することで、大学生を議論に参加させることに成功しています。若者は、大学の研究グループを通じて、あるいはインターネットに関連する活動を行う非営利団体に専門的に関わることで、自分たちの議論の仕組みを作り上げてきました。

特に、首都ボゴタ以外の遠隔地の若者をIGFのプロセスに参加させることに力を注いできた。このような若者の相互支援により、より多くのコロンビア人が奨学金を申請し、地域のインターネットガバナンスフォーラムにも参加できるようになりました。コロンビアIGFへの参加を通じて、若者は自分たちの関心事を紹介し、地域社会でのイニシアチブの原動力となった。このような一連の努力の協力はコロンビアIGFで具体化し、若者の貢献はワークショップやセッションに統合されています。また、ユース参加者はイベント期間中にセッションレポートを作成します。今年から、コロンビアインターネットガバナンス委員会は、ナショナルフォーラムの前にコースを開催し、新しいアクターも指導する予定である。

Youth IGF Africaは、アフリカのIGFが推進する若者のためのオープンプラットフォームで、アフリカで確立された、あるいはこれから生まれる若者のIGFイニシアチブ間の国際協力を支援するものである。それは、国、小地域、地域レベルでのIGF会議への参加と地域のエンパワーメントの創出を支援するものである。このプラットフォームは、組織的な支援パートナー間のグッドプラクティスの交換と、個々の若者のテーマを融合させた。チャド、スーダン、モロッコ、ナイジェリア、南アフリカ、コンゴ民主共和国、ケニア、ウガンダ、リベリア、マリ、チュニジア、カメルーン、ガンビアなど多くのアフリカ諸国の若者がこれまでにプロジェクトに参加しており、初の対面会議を開催することを目指している。

⁹ ICANN59の期間中、ACOULのGabriel Bombambo氏とCAFECのBaudouin SCHOMBE氏によるもの。

モデル4: インターネットガバナンスへの若者の参加を促進するための追加プロジェクト

一部のステークホルダーが、インターネット・ガバナンスのイベントへの参加とともに、コミュニティが、参加することに関心を示す若者のためのトレーニングイベントを多数提供している実践がある。

例えば、Youth IGF Movementは、若者が関心のあるインターネットガバナンスのトピックについて議論することを可能にするインセンティブである。この若者の世界的な運動は、若者(15歳から35歳とされている)が、地域、国、または地方での討論会の形式で、インターネットガバナンスに関連する問題について議論し、主導権を握ることを可能にするものです。これらの討論会は、Youth IGF Movementチームによって提供された方法論に基づき、ボランティアベースで若者によって組織され、IGFの基本原則を尊重するものである。これにより、若者の声がインターネットガバナンスコミュニティに届くようになり、若者が関連する意思決定プロセスに積極的に参加できるようになる。

このプラットフォームはまた、トレーナー養成ワークショップを通じて若者の能力開発セッションを提供し、情報社会関連の多くの問題に対する若者の意識を高めるハブとしての役割も果たしている。また、若者が若い起業家やスタートアップ企業のメンバーと出会い、起業の課題について意見交換することも可能で、国内外を問わず、さまざまなステークホルダーがトレーニングを提供しています。Youth IGFの集まりのコンセプトは、先進国、途上国を問わず、特に社会問題に直面している若者たちが、インターネットに関する考えや懸念を表現し、より広いインターネットガバナンスコミュニティに伝えることができる包括的な機会を提供するという考えに基づいています。すべての会議からの最終的なメッセージは、さまざまなレベルの意思決定者や議論の場に伝えられます¹³。IGFの年次会議に若者を参加させ、現地で実施します。IGFの年次総会に若者を招き、現地でフォーカス・セッションを実施し、他のすべてのIGFセッションへの幅広い関与と参加を奨励する。

ユースSIG (Youth Observatory) は、インターネット協会(ISOC)とブラジルのインターネット運営委員会が主催するブラジル・インターネット運営委員会 (CGI.br)が主催し、第10回IGFの期間中に開催された、第1回Youth@IGFプログラムにおいて、ラテンアメリカの若者が参加した結果、誕生した若者主導の組織である。このプログラムは、様々な国や地域の若者をつなぐことを目的としている。このイベントの目的は、様々な国や地域の若者をつなぎ、そうすることで、インターネットガバナンスに関する知識を共有することである。この組織は、ISOCのSIG (Special Interest Group) のひとつであるYouth SIGに属し、次のいくつかの前線で活動している。

- (a) 2回にわたるYouth LACIGFの開催。
- (b) LAC地域の数カ国の若手作家が執筆した本の編集と発売(2017年8月)
- (c) ソーシャルネットワーク上での定期的なキャンペーンを推進
- (d) 一部の国の学校におけるデジタル教育研修イニシアティブの推進
- (e) 地域、地域、国際的なインターネットガバナンスフォーラムに積極的に参加する。を提案し、組織し、参加することにより、地域、地方、国際的なインターネットガバナンスフォーラムに積極的に参加

ユース・オブザーバトリーのウェブサイトは、その活動への貢献を希望するすべての人に開かれている。

インターネットガバナンスに関するユース連合(YCIG)は、IGFの公式ダイナミックコアリション(DC)の一つである。その説明の通り、YCIGはプロセスへの若者の参加を奨励し、充実させるために協力する、あらゆる利害関係者を代表する組織や個人のためのオープンなグループである。

その主な目的は、インターネットガバナンスのフォーラムやプロセスにおいて、子どもたち、若者、若い専門家の声を擁護することである。さらにYCIGは、IGFの会期中の活動や他のダイナミックコアリションなどのイニシアティブに積極的に参加しようとする若者を支援し、IGFとその事務局がインターネットガバナンスプロセスにおいて他のステークホルダーと対等に参加できるよう支援することを目的としている。YCIGは、定期的なオンライン会議、現場での会議(年次IGF期間中など)を開催し、専用のメーリングリストを通じてネットワークとコミュニケーションをとっている。YCIGの活動により、そのネットワークのメンバーの多くが、他の多くのインターネット組織の指導的立場に任命されることになった。

アジア太平洋地域の若者のネットワークとして最近設立されたYouth4IGは、将来のインターネットガバナンスのリーダーを育成することを目的とした若者のコミュニティである。私たちの160人の強力なコミュニティは、アドボカシー活動、定期的なスキルアップウェビナーによる能力開発、若者のためのメンタープログラムの運営など、ローカル、地域、グローバルなインターネットガバナンスフォーラムへの若者の参加を強化するための活動に共同で取り組んでいる。

European Youth IGF Projectは、欧州で確立された若者IGFイニシアチブとこれから生まれる若者IGFイニシアチブの国際協力を支援する欧州連合の資金提供によるプロジェクト(2015-2017)である。地域のエンパワメントワークショップの創設や、国内、地域、国際的なIGF会議への参加を支援するものでした。機関パートナー間のベストプラクティス交流と個人のユースエンパワメントのテーマを融合し、2017年末に最終成果を発表する予定である。参加国は、オーストリア、ドイツ、オランダ、トルコの4カ国。

より広いIGFコミュニティは、インターネットガバナンスに特化した多くの学校¹⁰や、その他の教育・訓練活動も行っており、特に多くの若者が(その他の若者に加えて)インターネットガバナンスのプロセスや構造について訓練を受けている。

例えば、African School on IG (AfriSIG) は、アフリカ連合委員会 (NEPAD Planning and Coordination Agency)を通じてと進歩的通信協会 (APC) のパートナーシップにより、アフリカIGF年次会議の前に開催されている。AfriSIGは若者だけのために開催されているわけではありませんが、参加者の大半は若者である。AfriSIGは、リーダーシップ育成のプロセスを促進し、また能力開発の機会にもなっている。5日間のAfriSIGトレーニングが終了すると、参加者はスピーカー、報告者、モデレーターとしてアフリカIGF年次総会のプログラムに組み込まれる。これらの参加者は、アフリカIGFの期間中、ソーシャルメディア上で活躍する重要な役割を担っている。さらに、AfriSIGでは、アフリカIGF事務局のメンバーが参加者に会議で何を期待すべきかについて説明するセッションが必ずある。NRIに積極的に参加し、影響力を持つことは、AfriSIGの手法の中核をなすものである。スクールへの参加の結果、フェローは自国のイニシアティブに積極的に関わるようになり、ICANNミーティングやIGF年次会合出席のためのフェローシップなど、他の機会にも選ばれるようになる。

インターネットガバナンスに関する仮想学校(VSIG)も、能力開発イニシアティブの一例です。マシブ・オープン・オンライン・コース(MOOC)を通じて、若者を含むあらゆる年齢層の参加者は、世界各地の仲間とネットワークを作り、歴史、アクター、インフラ、開発、セキュリティ、法律、経済・社会・文化問題、人権、新技術という10のモジュールを通じてインターネットガバナンスについて学ぶことができる。

¹⁰ インターネットガバナンスの学校に関する専門の動的連合(DC-SIG)は、すべての学校を集めている
<https://www.intgovforum.org/multilingual/content/dynamic-coalition-on-schools-of-internet-governance-dc-sig>。